第86巻4号 通巻998号 2020年4月1日発行（毎月1回1日発行） ISSN0389 1771

ヨット、モーターボートの雑誌

Kazi

4
APRIL 2020

［特集］Spirit of Solo Sailors

ひとり乗りの世界

白石康次郎の最新IMOCA60
〈DMG MORI Global One〉

世界最大の艤装品ショー
「METS TRADE」

アラサー同級生3人組が
日本一周達成

デュッセルドルフ・ボートショー

ボート紹介

SAIL「M.A.T.1070」

POWER「シーラインF430」「グリーンライン・ネオ クーペ」

連載

Sail to TOKYO 2020「3種目の日本代表が内定」

海ガールはじめました!「JEISで1級ボート免許取得」

理想のヨットライフを探せ!「夢のクラシカル艇『アレリオン28』に乗る」

SEALINE F430

シーラインF430

**もともとは英国で誕生したブランドですが、
2013年からはドイツで建造されるドイツのビルダーのモデルとして、
ハンゼグループ傘下で順調に業績を拡大しているシーラインのフライブリッジセダンです。
現在のシーラインには、2モデルのフライブリッジセダンがありますが、
このF430はより新しい世代のもの。
ガラス面積が大きく快適なデッキハウス、選択肢が多いオプショナルレイアウト、
操船性に優れたボルボ・ペンタIPSの搭載など、魅力ある一艇に仕上がっています。**

文＝中島新吾　写真＝宮崎克彦（本誌）
report by Shingo Nakajima, photos by Katsuhiko Miyazaki (Kazi)
協力＝横浜ベイサイドマリーナ

試乗時の水面コンディションは決してよくなかったのですが、乗り心地が極端に悪くなるようなことはありません。基本的にソフトで落ち着いた航走感を備えたモデルであり、その気になれば意外に速度も出せるという、使い勝手のよいクルージング艇です

YouTube動画配信中
右記QRコードまたは、
舵社　動画　で検索

正面から見ると、デッキハウスがわずかに左舷寄りに配された左右非対称レイアウトであることがわかりますが、このモデルを一見してそれに気づく人は少ないでしょう

旋回時の内傾は少なめですが、速度を上げれば、もう少し大きくなります。こういったところも、穏やかな航走感という印象につながる部分かもしれません

ガラス面積が大きな上部構造は軽量ではないはずですが、実際に乗っていて、トップヘビーという印象は受けません。ハル形状や浮心と重心の設定が絶妙なのでしょう

2018年デビュー

1972年、英国、イングランドのほぼ中央部、バーミンガムにほど近いボビントン(Bobbington)という小さな村で、トム・マラント(Tom Murrant)が2人の友人、フランク・フィッシュ(Frank Fish)、レイ・ウォーカー(Ray Walker)とともに立ち上げた、ファイブラソニック・マリン(Fibrasonic Marine)というビルダーが、シーラインのルーツです。

このビルダーの場合も、かつて少なからぬボートビルダーがそうであったように、トム・マラントが、自身の望むボートを建造したいというところが始まり。しかし、マラントが建造した23フィートクラスのクルーザーは、十分に市場で通用するものであったようで、ビルダー立ち上げのために自身の生命保険から引き出した500ポンド(変動相場制への移行直前の当時のレートで、約43万円)を返済し、郊外の小さな飛行場跡を借り受けた施設を維持することができました。

発展には時間がかかったようですが、それでも、1980年代には国際的なボート市場でも認知される存在となり、英国における大手ビルダーの一つに成長。また、1970年代の終わりくらいからラインアップされていた「Cライン(C-Line)」というシリーズの成功を背景に、Cラインの「C」を「Sea」とした、「シーライン(Sealine)」ブランドがこの時期から前面に打ち出されます。ちなみに、もともとの「Cライン」における「C」には、「Cruiser(クルーザー)」と「Cabin(キャビン)」の意が含まれていたそうです。

1998年、マラントはシーラインの経営権をジェラード・ウェインライト(Gerard Wainwright)に売却。ウェインライトは、同社を米国の大手ビルダーグループのブランズウィック(Brunswick)傘下に置き、経営規模を拡大します。しかし2008年のリーマンショックによる経営不振をきっかけに、同社の経営権は、2011年にカリフォルニアのオクスフォード・インベストメントグループ(Oxford Investment Group)、さらに2013年にはドイツのオーレリアスグループ(Aurelius Group)に移ります。

オーレリアスグループは、2011年にドイツのセールボートビルダー、ハンゼ(Hanse)と、その傘下のビルダーグループを買収しており、シーラインもハンゼグループに組み入れられました。現在のシーラインは、ハンゼグループのほかのブランドと同じ施設で建造される、名実ともにドイツ艇と呼ばれるべき存在となっています。

さて、今回のF430は、2018年1月のデュッセルドルフ国際ボートショーで初公開されたモデルです。ハンゼグループの一員となってからのフライブリッジモデルとしては2モデル目(1モデル目はF530)であり、この種のモデルとしては、ファミリーユーザーなどにも訴求しやすいサイズということもあって、2017年にそのプロジェクトが公開されたときから多くの人の注目を集めていたであろうことは、想像に難くありません。現在もフライブリッジセダンは大型化傾向にあり、40フィート台前半のモデルは限られますが、泊地や係留場所の条件から、このクラスが上限となるユーザーは世界中にいます。そういった意味でも、注目されるモデルかもしれません。

キャビントランクからビークヘッド(beak head=船首先端)にかけては、凝った造りのクッションバッドエリアが設けられます。クッション両脇の円柱は照明です

デッキハウスはわずかに左舷寄りに配されており、両舷のサイドデッキは、幅もそのレベルも異なる左右非対称形状ですが、乾舷高は同じなので、外観的にはわかりません

コクピットは、オーバーハングしているフライブリッジの下。デッキハウスの船尾側は、ほとんど開放状態にできるため、船内のギャレーとのコミュニケーションも容易

姉妹艇も存在

ハンゼグループの一員となってからのシーラインのモデルは、すべて、英国に本拠を置くディクソン・ヨットデザイン(Dixon Yacht Design)が設計を手掛けています。ビル・ディクソン(Bill Dixon)率いるこの設計事務所は、カスタムスーパーヨットからプロダクションモデルまで、セーリングヨットもモーターヨットも引き受ける総合設計事務所です。

ハンゼグループのブランドでは、以前からセーリングヨットのムーディー(Moody)がディクソン・ヨットデザインの手に成るモデルをラインアップしていましたから、新たなスタートを切ることになったシーラインの設計者を決定する際にも、ムーディーのラインアップ構築の際に培われたハンゼとディクソン・ヨットデザインのリレーションシップが機能したのかもしれません。

さて、このモデルはフライブリッジセダンですが、実は、フライブリッジが備わらないということ以外まったく同じ仕様という、クーペタイプの姉妹艇が存在しています。それがC430というモデルです。

C430は、F430よりも4カ月ほど早い2017年9月、英国のサウサンプトン国際ボートショーでデビュー。それぞれの登場時期から考えて、開発はほぼ並行して行われたものと思われます。また、現在はまだプロジェクトが進行中という段階ですが、これら2モデルに加えて、同じハルを用いたハードトップ付きエクスプレスクルーザー、S430というモデルも発表されています。

さて、F430の基本的な諸元は、全長13.55メートル、全幅4.20メートル。ハル長は11.73メートルです。全長ベースで44.5

フライブリッジ。左舷のU形シートの一部は、船首側のバックレストを動かして前向きにもできます。両舷に2人掛けのシートを配置可能な幅があることにも注目

右舷船尾端にはバーベキューグリル付きウエットバー。グリルの設置場所については、いくつか定番的な位置がありますが、このモデルのクラスで、フライブリッジは少数派

フライブリッジのヘルムステーション。インストパネルには十分な航法機器ビルトインのためのスペースがあります。ジョイスティックは右舷着岸に便利な位置にあります

シーラインのフライブリッジやクーペのデッキハウスは、とにかく窓面積が広いという印象。インテリア素材の選択肢は多く、試乗艇とはまったく異なる雰囲気にもできます

ロワーステーションのヘルムシートは90度回転させることができ、サロンエリアのテーブルを囲む形にもできます。写真では座面が高いままですが、台座の高さは調節可能

ロワーステーション。航法機器のビルトインスペースは広く、複数のディスプレーを配置できます。ジョイスティックはハウス脇の通路からも操作できる位置にあります

フィートクラス、ハル長ベースで38.5フィートクラスということになるでしょうか。ハルの縦横比は2.79で、このクラスのクルーザーとしては、かなりの幅広艇です。

船内の標準レイアウトは、2ステートルーム・ギャレーアップ。試乗艇もこのレイアウトです。

デッキハウス内は、船尾側にギャレーを設け、前方左舷にU形のラウンジ、右舷にヘルムステーションという配置。これについては、ほかのレイアウトはありません。

ハウスの船尾側に設けられたギャレーは、コクピットに面したガラス窓を跳ね上げることで、コクピットに向かって飲食物を提供できるかたちになります。コクピットは、そのほぼ全体がイーブズ（eaves=ひさし）で覆われており、L形のシートと大型テーブルも備わっているため、天候に恵まれれば快適なダイネットとしても機能する形態です。

ロワーデッキは、船首とミジップにそれぞれのステートルームにダブルバースを備えた2ステートルーム仕様。ただし、船首室はシングルバース2本のVバース仕様オプションがあり、ミジップのステートルームは、それを左右に分割して2室にするオプションが用意されています。幅広なプロポーションを生かした、標準レイアウトの広々としたミジップのステートルームもなかなかのものですが、その一方、このクラスで、ミジップに2室を配したレイアウトを選択できるモデルは決して多くありませんから、オプショナルレイアウトの3ステートルーム仕様にも魅力があります。

穏やかな走り

基本的なハル形状は、シーラインがハンゼグループとなってから設計された、ほかのモデルと同じ方向性を持つもの。垂直に近い、短いステムを備え、そのステム下部に直接キールがつながるタイプです。ステム下部に深いフォアフットは存在せず、キールラインは、ミジップ付近から穏やかに弧を描きながら船首に向かって上昇し、水面を抜けています。

こういった船型は、現代のヨーロッパのクルーザーで流行しているスタイルで、水面を切り裂くのはステムではなく、穏やかに上昇するキールの船首側。フォアフットが浅いため、ボトムの最深部はミジップよりも船尾側です。波当たりの柔らかさを実現しながら、安定感のある航走を目指した船型です。

このモデルの標準パワーユニットは、2基掛けのボルボ・ペンタIPS 500（370馬力）。試乗艇が搭載していたのは、従来型のD6-370ディーゼルを用いたものですが、ボルボ・ペンタのD6シリーズはモデルチェンジされ、D6-370は、新しくD6-380（380馬力）に変わりました。それに伴い、このモデルの標準パワーユニットも、今後は、D6-IPS 500（380馬力）という、新しい名称のものになるはずです。

試乗時の最高速は、自動トリムタブを稼働させた状態で29.6ノット（3,300回転／分）。シーラインのカタログで公表されている最高速が28ノットですから、それを上回る速度を記録しています。もちろん、シーラインの示す最高速と、今回の試乗時では、計測条件が異なりますから、この程度の違いはあって当然ですが、排水量が13.58トンあり、風の影響を受けやすいであろう高さのあるモデルでもありますから、なかなか効率のよい走りといえるでしょう。エンジン回転数を2,400回転／分まで落としても、十分にクルージング速度として通用する16.0ノットです。

大きな上部構造を載せており、ガラス面積も大きいモデルですが、静止状態においても、航走状態においても、ローリングはうまく抑えられていると思います。旋回時の内傾も比較的穏やかです。高速で旋回しながら他艇の曳き波を突っ切るような場面でもなければ、バタバタと跳ねるような挙動は示しません。

なお、試乗は寒冷期に行ったため、写真撮影時以外は船内のロワーステーションで操船していたのですが、その視界はフライブリッジのないクーペタイプのC430と共通のものであるため、きわめて良好です。

＊

呼称43フィートクラス、ハル長ベースで考えれば40フィートを切るクラスですが、幅広なプロポーションがもたらす居住性はなかなかのもの。ファミリーユーザーにとっても、使い勝手のよいクルージングモデルだと思います。

ミジップのステートルーム。中央部の天井高は1.33メートル程度ですが、入り口付近は2.10メートルほど。2室に分割するオプションでは、天井高の低い部分に壁を設けます

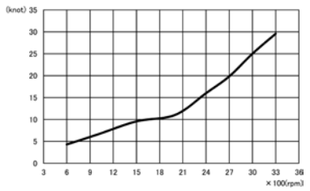
マスターステートルーム用ヘッド／シャワー。天井高は1.98メートル確保されています。こちらのヘッド／シャワーは、船内通路側にもドアを設けた兼用タイプです

船首室に隣接するヘッド／シャワーは船首室専用。レイアウト上、こちらのヘッド／シャワーを通路側にもドアを設けた兼用タイプにするのは難しかったようです

ダブルバースが置かれた船首室はVIPルームという設定。入り口付近の天井高は1.97メートル。両舷の舷窓、キャビントランクの船首端、天井のハッチなど、採光は十分

試乗艇の搭載パワーユニットは、2基掛けの従来型IPS 500。新しいD6-IPS 500では、エンジンカバーにもD6-IPS 500と記されています。出力の違いは10馬力だけです

SEALINE F430 速度グラフ



計測は試乗艇搭載のGPS。各回転数において速度安定後に10個以上サンプリングしたデータの平均。往復航走によって誤差が生じる場合は、さらにその平均を算出

DATA FILE

●全長：13.55m ●ハル長：11.73m ●全幅：4.20m ●喫水：1.25m ●排水量：13.58t ●燃料搭載量：1,100L ●清水搭載量：450L ●エンジン：ボルボ・ペンタIPS 500（370PS／272kW）×2、IPS 600（435PS／320kW）×2

※スペックはエンジンの名称等を含め、シーラインの2020年向けカタログの記載に基づいています

●価格：問い合わせ

［問い合わせ］
ウインクレル
〒231-0032
神奈川県横浜市中区不老町3-12-5
TEL：045-681-0104
https://www.sports-w.com/yacht/